第六九師団工兵隊異動

年月日	概要
昭七、四、二 編成改成下令さる。	軍令陸甲第八号に依り編正改正下令せらるや部隊長は直ちに編成要員を命じ編成に着手す。
昭七、四、八日 編成改正完結す。	編成要員並に兵器、馬匹の大部は独混第一六旅団工兵隊より其の侭引継ぐことを得一部は歩兵大隊より編入せらるる地域的並に時間的に相当の困難を予想せられたるも関係諸官編成要員の自後を分たぬ努力に依り、昭一九、四、八日独混第十六旅団工兵隊より第六九師団工兵隊へ編成改正完結す。
隊員表	同日に於ける隊員左の如し
	部隊長　陸軍大尉　田浦清治郎
	附　〃　中尉　小野弄孔
	附　〃　山吉嶺作
	附　〃　仁藤忠夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭七、四、二八 瀋陽現駐	四月二八日現駐の瀋陽出発同日二九日臨分著原第四一師団工兵隊兵舎に入り同日より臨分地区の警備に任ず。
昭七、六、二二 亜石間の自動車道構築	六、二二日　亜県ー亜石間自動車道構築の為部隊長は安藤曹長以下十名ー指揮班を亜県に先発せしむると共に仁藤小隊及阿彦小隊を率い強行軍を以て亜県に前進す。 時恰も酷暑期にして加うるに飲料水に恵まれざる上作業亦岩盤のため困難を極めたるも部隊長以下士気旺盛にして克く天然の障碍を克服し七月七日間作業を完成全員無事帰還す。
昭七、二、一五 同月二四日 安吉ー九叉間	心源作戦開始せらるゝや工兵隊は安吉村ー九叉間の道路作業を命ぜられ部隊長は石田小隊何彦小隊の八名を指揮し安吉村に前進す。

附　〃　三流正次
附　〃　青計少尉　大川明
附　〃　軍医中尉　金江孟

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自動車道構築

昭七、一二、六
裏陸架橋作業開始す、

該道路は洪洞一心源を結ぶ動脈たりしも狭隘なるため自動車に依る急速なる軍需品輸送の間に合はず為に百十八大隊の行動を極度に制約しありたるも部隊長以下將兵一致団結兵亦よく任務を理解し徒歩日に継ぐ作業を続行し僅か八日間にて完成十一月二四日早朝我岡の音も高らかに心源に驀進する自動車部隊を望めり。

主要なる作戦終了し物料整備完うし分河水減水期となり多年懸案たりし裏陸半永久橋架設に着手す。

部隊長は十二、二五日　仁藤中尉並に石岡少尉に裏陸架橋の偵察を命じ阿彦曹長を設営の為め先発せしむ、

一二、六日　部隊長は主力を引提げ裏陸に前進石岡少隊を右岸より阿彦小隊を左岸より半久橋架設を命ず。

架設点は敵状なりしも寒冷期に入り剣八河風は回映硬直せしめ河岸一帯を舞い上げ視野を蔽り日毎に流線変更し予測を許さざる中卅の出没甚自然障碍は敵情に勝り其の困苦は想像に絶したるも部隊長以下士気旺盛將兵一致団結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

永結せる分河に飛び込み兎り工兵の本領を発揮し翌年一月二七日同架橋完成す。

裏陵架橋作業終了するや部隊長は直ちに高顕鎮に偵察を派遣すると共に好期逃すべくもあらず高顕鎮架橋作業に着手す。

部隊長は石岡小隊同彦小隊を率い高顕鎮に前進す時三月も半ばにして好期なれども分河の特性は裏陵と異も異ならず加うるに敵状不侮るべからざるものあり。

尋ね資料収集班襲はれたるも常に損害なし。

十八春大行作戦参加

裏陵に於ける貴重なる架橋し経験並に部隊長以下の真剣なる努力実を結び半ば完成したる頃十八春大行作戦開始せられ架橋作業一主力は同作戦に従事す。

部隊長本工兵隊分遣となり仁藤中尉は部隊長代理となり四月十八日石岡小隊(井上小隊)同彦小隊を率い臨分より彰德迄列車輸送同地より水沿鎮に向って前進水沿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

鎮ー林泉ー 則敦村間の自動車道路指導をやり兎く後方補給路を完備し同作戦遂行に多大の貢献を為し九月十八日金員兵事帰還せり、

昭六、四、一二

高顕鎮架橋作業完成

主力出発後ー高顕鎮架橋作業は三連中尉の指揮する船毛、年度教練の初年兵之を引継ぎ四日一二日同作業完成す、

昭六、八、二九

十八歩太岳作戦前指せらるや九、二九 三連中尉の指揮する一ケ小隊は師団直轄となり平遥より道路作業に任じつゝ、王和鎮ー北京鎮に到へり、

十八歩太岳作戦参加

一方奥山少尉の指揮する一ケ小隊は独立混成第四旅団に配属となり蒲鎮ー作業に任じつゝ霍山々脈を突破し北京鎮にて三連本隊と合流す

部隊長亦工兵学校分遣終り両小隊を掌握するや将兵ー土俗鎮に移り

続いて安吉村ー安邑ー洪洞ー臨汾間の自動車道を補修しつゝ、臨汾に補給をつく間もなく浮山へ反転同地より翼城ー蒲県ー垣曲ー絳善鎮間ー自動車

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭五、三、二六	猶構築を完了するや同作戦も終らぬ。 幾百里を数う蜿々たる補給路を担任しつゝ部隊長を中心に一致団結[illegible] 同意気少しも衰へず終始一貫作戦の動脈を遅滞なからしめたるは師団の作戦に寄与せる所極めて大なり。
	移駐
昭五、四、一〇 七、七	部隊は現駐のため臨汾出発四月二日運城到着同日より同地附近の警備 河南作戦参加 西北河南作戦斗開始せらるゝや四月一〇日武隊長は石岡小隊並に加藤小隊を率い王村鎮に前進同地に於て独工五九大隊の指揮下に入り焉里黄河渡河作戦を担任し白兵鎮に於て井上小隊と合流尓後独立工五九大隊と第津渡河を支援同作戦終了后も特別作業隊となり同地に於て連日の爆撃に明かれ敵戦を避けて夜間作業を不眠不休にて続行し或いは増水期に於ける魔を物ともせず、流水を冒して隨海線一軌條運搬等生死を超越せる敵斗を続行。
昭五、七、七、 〃一三、一〇	第津渡河作業後事

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、三、一〇、警備文書と共に帰兵団工兵隊と同作業を受電す。
尚同作業は第一軍司令官陸軍中將澄田閣下より表彰状を授与せられたるを附記す。

昭二〇、三、一

編成改正下令せらる。
軍令陸甲第十八号に依り第九師団工兵隊編成下令せらる。
部隊長は直ちに編成要員を集じ編成に着手す。
編成要員一大部は師団管内の歩兵大隊にして兵器馬等は一部師団より補給せられたるも大部は軍より補充せらる編成要員の大部を占むる歩兵大隊は広範囲に散在し且輸送の便亦極めて不便なるため編成当日の集結を懸念せられたるも関係各官並編成要員の努力に依り
茲に第六十九師団工兵隊編成完結す。
編成時に於ける転員左の如し

部隊長　陸軍少佐　田崩清治郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

副官	陸軍少尉	本田仁一
附	〃	石原政治
〃	見士	宮本和夫
〃	〃 主計見士	田中為佑
〃	〃 軍医少尉	出町律
附	〃 獣医見士	佐々木三雄
第一中隊長	陸軍中尉	石岡陽一
附	〃 少尉	柴田繁
〃	見士	山森秀夫
〃	〃	北村義
第二中隊長	陸軍少尉	井上一美
附	〃	山川吉太郎
〃	見士	尾中栄一
〃	〃	吉田勇
第三中隊長	陸軍少尉	翠合武雄
附	〃	熊谷梅作

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、四、九、現地のため重慶出発

現地のため重慶出発

昭二〇、四、一五、嘉定到着同日より嘉定附近の警備に任ず

昭二〇、一二 に於ける職員表左の如し

附	〃 陸軍 見士	小山紹久夫
〃	〃	深川賢一郎
嘉救小隊長	見士	森竹司

部隊長	陸軍少佐	田浦満治郎
副官	〃少尉	本田仁一
附	〃大尉	加藤俊二
同	〃中尉	石原政治
同	〃少尉	宮本和夫
同	〃主計少尉	田中彦佑
同	〃軍医中尉	出町律
第一中隊長	〃大尉	石岡陽一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附　〃少尉　山添秀夫
附　北村義

第二中隊長　〃中尉　井上一美
附　〃少尉　居中宗一
同　吉田勇

第三中隊長　〃中尉　菱台武雄
附　〃少尉　熊谷梅作
附　小山新久夫
附　深川順一郎

器材小隊長　陸軍中尉　石塚政治

昭二一、一、二一　場口領出発　同月二二日　上海到着同月二三日上海港出帆　同月二七日　長崎到着同地にて復員す

復員時に於ける人員内訳左の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

傭員　九七九名

内
内地除隊　六四六名
現地除隊　五九名
生死不明（逃亡のまゝ）一名

内訳
入院　三五名
転属　二〇九名
残留者　なし
死亡者　二九名（傭役以来）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六九師団通信機器厂

陸軍少佐　難波一清

年月日	概要
	部隊名 第六九師団通信隊
	部隊長官氏名 昭二、四、八　陸軍少佐　丸内忠八 八、三、一　〃　山本東一 八、六、一　〃　難波一清 五、二、九 五、三、一（現在）
昭七、二、	部隊の行動 軍令陸甲第八号に依り第六九師団通信隊編成下令
七、四、八	編成完結　山西省汾陽に位置す
七、四、二九	山西省臨汾に移駐す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭七、七、一〇	対晋汾陽東南方地区作戦に主力を以て参加
七、二、二	一部を以て襄陵県小郭村附近の討伐に参加
八、二、一〇	主力を以て洪趙西方地区対山西軍作戦に参加
八、二、二七	〃　沁源地区作戦に参加
一一、一、一二	一部を以て浮山東方地区作戦に参加
一一、一、一三	一部を以て洪洞西方地区対第四八師作戦に参加
八、一、五	一部を以て十八森大行作戦に参加
一、一〇	主力を以て十八森大岳地区作戦に参加
四、五	運城に移駐
五、一三	主力を以て西北河南作戦に参加
九、一〇	一部を以て汾南地区山西軍撃滅作戦に参加
一、二〇	
〃 一、一三	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭五、一〇、一四 〃 二五	一部を以て靖氏県東方地方地区作戦に参加
一〇、二六 二、五	〃 第二次汾北作戦に参加
昭六、四、七	移駐の為山西省運城出発
四、一八	江蘇省嘉定に移駐す、
一〇、四	移駐の為嘉定出発
一〇、六	宝山県楊行鎮に移駐
三、一、三	一部（一三六名）復員の為楊行鎮出発
三、一、七	〃 鹿児島に上陸復員す

人員内訳（残務整理者小山大尉取扱分）

総員 一四二名

現地召集解除 六名

内地 〃 一三六名

残務整理のため小山大尉 百二九名 二日市到着

二月六日 完了 同日召集解除す、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六九師団輜重隊

年月日	概要
昭三、四、	編成 第六九師団輜重隊は北支山西省太原に於て編成す。 部隊は陸軍中佐松村斌之を統率し自動車第二十四連隊に於て編成せられたる自動車二個中隊及北部第二三部隊に於て編成せられたる輓馬一個中隊の混成より成る。 人員車輌及馬匹の編成左の如し 人員 本部　二五名 第一中隊　一三五〃 第二中隊　一五〇〃 第三中隊　一五〇〃 車輌

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自動貨車　一二〇輛
指揮官車　二〃
四輪起動　四〃
修理車　四〃
馬匹
日本馬　九四頭
大陸馬　一三六〃
輜重車　三五輛

兵營の移轉及部隊長の移動

輜重隊は太原より山西省臨汾に移駐し
同地に在りて專ら警備に任せり其の間昭六、三　陸軍少佐勝又兼雄、松村中佐と交替せり
警備交替に伴い臨汾より運城に移駐し二〇年四月迄、同地一帯の警備を担

昭七、四、
〃九、二
九、三、一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

任し更に情勢の変遷に伴い湖城より中支江蘇省南翔に現駐し専ら光号作戦準備に任し同年八月十四日終戦に至る迄同地域の警備を担任せり。

部隊の復員

揚行鎮出発同月二二日上海到着同二三日上海港出帆同二十七鹿児島港上陸同日同地に於て復員を完了す。

復員時に於ける人員の内訳左の如し

総員　六百六名

内訳

内地除隊召集解除	四二九名
現地召集解除	五〃
入院	二六〃
死亡者（昭二〇、四、一以降）	一八〃
生死不明者	二〃
処刑者	二〃
転属者	三一〃
残留者	九七〃

昭二、一、二一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六九師団野戦病院要員

年月日	概要
	部隊長氏名
昭七、四、一四	陸軍々医少佐　佐野政明
〃八、一	
〃八、二二	〃　〃　松嶋次郎
〃七、二三	
〃七、二三	〃　〃　大尉　松岡幸七
〃三、三、一二	
	編成完結の状況
昭七、四、一四	臨時動員に依り弘前師団野砲兵第五七連隊に於て編成を完結せり、編成表別表別紙第一の如し（別紙略）
	行動
昭七、四、二〇	青森県弘前を出発
〃、三	宇品港出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、五　登山上陸

九、九　山海関通過し

九、一五　任地中華民国山西省霍県に到着第百師団唯一の衛生部隊として留守傷病者の収療並防疫業務に任じ

現地到着以来收療部隊々員状況

別紙第二の如し（別紙略）

作戦参加状況

別紙第三の如し

終戦後に於ける行動

終戦後引続き山西省臨定県朱家村及嘉定に病院を開設しありしが師団命令により昭二〇、九、二七病院を閉鎖し十月一日吳淞永安船に集結を完了すると共に更に病院を開設し傷病者の收療業務に任じ？

部隊は帰還の命を受くるや同日病院を閉鎖し衛生材料及患者被服は中国側接收を受け引渡し、其他関係業務は師団の規定により処理をつし仝年三月

昭二一、二、三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八日一六時乗船内報を受け翌九日九時中国側諸検査を終了、
仝日十日一七時揮捉錨し乗船上海港を出帆
仝月十二日十二時三〇分博多港に入港上陸同日一六時復員式を終了せり
復員時（上陸）兵力明細表別紙第四の如し（別紙略）
〃（〃）入院患者人員表別紙第五の如し（別紙略）
部隊死亡者　調査表別紙第六の如し（別紙略）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別紙第三

作戰參加狀況

期間	作戰名称	参加部隊数					
		野戰病院	戰斗班	患者收容所	傷病者療養班	計
昭一七、六、四～六、一〇	対晉汾城西南地区作戰		二			二
〃 六、一一～六、一七	汾陽北方地区作戰		二			二
〃 六、二九～七、一三	対晉襄陵西方地区作戰		二			二
〃 七、一〇～七、二二	対晉汾陽東南地区〃	二	四			六
〃 七、二三～八、一三	対大一軍作戰		三		一	四
〃 八、一〇～八、一五	襄陵北方地区討伐		一			一
〃 八、二〇～八、二七	洪趙西方地区対山西軍作戰	一	三	一		五
〃 八、二八～九、二	萬安鎮西南方地区作戰					一
〃 九、一～九、四	洪洞東方地区作戰		一			二

(300)

2

2231

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

〃 九、三 九、九	霊邱東北方地区作戦	二				二
〃 一〇、三〇 一一、一二	沁源地区作戦	二	四			六
〃 一二、一〇 一二、一三	浮山東方地区作戦	一	四			五
〃 一二、一四 一二、一七	洪洞西方地区山西軍掃蕩作戦		二			二
昭一六 一、一 一、四	蒲安鎮西方対四十八師作戦	一				一
〃 一、五 一、一〇	洪洞西方地区対四十八師作戦	一	二			三
〃 四、五 五、三	十八春太行作戦	二				二
〃 九、三〇 一一、五	十八秋太岳地区作戦	一	一	二		四
昭一九 四、一〇 七、五	西北河南作戦	二	三			五
八、二九 九、九	保河北方地区掃蕩作戦	一				一
九、五 一〇、三	汾南地区山西軍基地作戦	一				二
昭二〇 二、二〇 三、一七	汾南地区二月粛正討伐			一		一
五、一 六、一七	光号作戦準備	一				一

(301)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六九師団病馬廠

年月日	概要
	編成名　晴沖四二一七部隊
昭七、四、八	部隊編成年月日　山西省臨汾
	作戦参加
昭七、四、八	臨汾に在りて病馬の收容
〃九、三、五	
昭九、三、六	運城附近の警備並に病馬の收容
昭一〇、四、三	
昭一〇、四、三	江蘇省嘉定県嘉定に転進
	爾後作戦準備中終戦に至る
	第二次復員部隊指揮官　陸軍書長　木村孝治郎
	復員部隊人員数　二六名
昭二、一、二	部隊出発日時及駐屯地　上海呉淞

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、一、一三	出帆日時
一、一六	上陸地及日時　佐世保
一、一六	除隊名集解除日時及地点　佐世保
	上海残留兵力の概数及地点
	十四名　江蘇省嘉定県嘉定
	復員者　水村曹長以下二五名
	残務整理者　工藤伍長
昭三、一、一七	の間に終了
〃一、一二	主力は嘉定にありて帰国準備中なり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六九師団病馬廠異厂

年月日	概要
昭七、四	編成
四、八	昭七、二、二　軍令陸甲第八号に依り第六九師団編成下令 中華民国山西省大原に於て第六十九師団病馬廠編成完結
六、七 六、一七 七、一〇 七、二二	初代廠長　陸軍獣医大尉　菊地喜代志 汾陽北方地区作戦参加 汾陽東南方地区作戦参加
昭八、三、一	廠長更迭 第六九師団病馬廠長　陸軍獣医大尉　菊地喜代志 関東軍へ転補 第二七師団獣医部々員陸軍獣医中尉　田辺辰之助 南第六九師団病馬廠長

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、四 五、五	十八春太行作戦参加
九、二二 二、二〇	十八秋太岳地区作戦参加
	移　駐
昭一九、三月	移駐のため三、二二山西省臨汾出発同月二三日、山西省運城着
	同地附近の警備
四、一〇 七、九	西北河南作戦参加
九、一八 一〇、一〇	冷南地区山西軍閥殲滅作戦参加
	移　駐
昭二〇、四月	中支那転進のため四、二二山西省運城出発五月一日梅口通過
	同月二日江蘇省嘉定県嘉定着
	同日より浦海道附近の守備（光号作戦準備）
八、一四	停戦詔書発布
八、一五	復員下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、二	停戦協定締結、 病馬廠は接收業務終了と共に十月上旬より呉松地区乗中営に乗中を命ぜられ中国側要求に依り労役に服す
昭三、一、二八	帰還
一、三一	内地帰還のため上海港出帆 博多港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団司令部略歴

年月日	摘要
	部隊長官氏名　陸軍中將　内田銀之助
	編成完結の状況
	一、編成下令　昭一九、八、一　軍令陸甲第七九号
	二、編成完結日日　〃　八、一五
	三、編成場所　駐蒙軍管内　蒙疆大同市
	四、編成基幹部隊　昭一九年　春以来河南作戦に独立歩兵第九旅団司令部
	五、編成
	1、第百十八師団参謀部
	2、〃　副官部
	3、〃　兵器部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5. 第百十八師団兵器勤務班
5. 〃 経理部
6. 〃 経理勤ム班
7. 〃 軍医部
8. 〃 獣医部

六、編成完結と共に人員其の他完全に充足し終れり。

行動の概要及目的

一、警備継承

編成完結と共に駐蒙軍司令官の麾下に入らしめられ蒙疆西地区（大同、厚和、包頭）の防衛の任を各所在部隊より継承せる師団は司令部を大同に位置せしめ第三師団の佐久間旅団司令部より諸般の事項を引継ぎ直接大同県城の警備に任ず。

二、第二次厚包作戦参加

昭五、八、一五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭五一二一七

才二次厚生作戦を開始せらるゝや司令部作戦初頭より戦斗司令所を大局、厚和、武川、烏蘭、不浪、哈頁合沙、密東案、地点地に推進し陰山山脈内の敵重要系才八戦区副長官指揮作義に蛍する游擊隊約三千を所々に遮乱せしめ酷寒を冒すこと約五日　十二月十五日作戦終了と共に司令所を閉鎖す　同に復帰す　厳寒零下三五度を突破する作戦は蒙疆の山脈陰山の敵才八戦区の呼号する冬季総反攻の前進拠点の覆滅を完全に達し但我冬季作戦遂行の貴重なる体験と自信を獲得せり

昭三一二一八

三、一部の転屋

蒙参編才四五号に依り厚和に於て編成する才十二野戦補充隊を基幹とする独立混成旅団要員として一部を転屋せしむ

昭三一二月上旬

四、上海附近に転進準備並に編成改正

太平洋上敵米軍の進攻漸く日に猛烈を加へ支那大陸及岸作戦の必要厚となる

順師団亦大平洋沿岸に臨時転進せしめらるゝを予想し米軍敵軍の対米戦斗部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

線に一人第次の精神を以て部隊の戦準備を進むる一方対米開戦決断の資料を広く集成配布に基盤確立を期す、三月上旬戦進準備の一端として師団の分担第四独立警備隊の編成を命じ第四司令部亦一部を之に転属せしむ、

三、三一　以く準備中、中旬に至り師団は第四独立警備隊の現任務を継承し上海附近三角地帯に戦進第十三軍司令官の指揮下に入り米軍接岸の敵重準備作戦（光号作戦）参加の命を受く期して待つ此に至り敵に企図を秘めつつ、第四独警司令部編成完結と共に蒙疆西地区防衛司令部の任務を申基り大同に在りて鋭意七号作戦参加の訓練並に出発準備に突進す、

四、一一　光号作戦参加の先遣者として参謀長山口武三郎大佐以下所要の枢幕を在上海第十三軍司令部並に予想作戦地に前進せしむ、

四、一九　司令部は師団主力梯団となり予想作戦地に向い大同を出発一路敵地跳梁の津浦線の南下を敢行せり天正に我に与す、長途の列車行軍は敵の防害をも受くることなく志気旺盛日本興亡皮肉の運命の決戦場、神兵の活躍地、備蓄陸機

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の決戦場たる場子江、江口附近支那事変皇軍上陸の名戦場崑山に達着す時に昭二〇、四、二三 なり直に光号作戦師団戦斗司令所を開設せり。

尓後五月五日更に戦斗司令所を大倉に推進し光号作戦々斗指揮所の陣地を拡大附近に構築する一方諸資料の研究、訓練に中枢機関の最大能力を発揮す。

七、再度蒙疆転進

八、九 ソ連対日宣戦の報伝はるや急遽師団は速やかに全力を以て再度蒙疆軍管内に復帰し蒙疆地区防衛強化の命を受く、直ちに八月十日光号作戦の準備の任の総てを解放し大十九師団に現状八月十一日早くも崑山発暗雲低迷ソ連軍南下の報頻りなる蒙疆に向う。

八、張家口市防衛

八、一四 愛呼する市民に迎えられ張家口に到着し駐蒙軍司令官の指揮に入り直ちに戦斗司令所を張家口市内二国民学校に開設しソ連南下対策の堅陣を布けり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、終戦

八、一五　志気頓々上昇神州男子死斗を決意しありしに玉音畏し終戦の御詔勅換発せられたり、

昭二〇、八、一五　終戦后の行動

依然要衝確保邦人保護の目的の為張家口市周辺に陣地を布き防御の金きを期しありしも情勢の転換如何ともし難く戦闘軍作命に基き平津地区防御の為八月二十一日　血涙下る引くに引かれぬ蒙疆の首都張家口を徹退徒歩行軍に依り南下八達嶺の峻剣を越へ一先づ八達嶺の堅陣を遮断すべく駐斗司令部を南口に開設す、

八、二六　二、天津へ転進

師団天津地区要塞防御の命を受け八日三十日早朝南口発全日夜天津に到着独立混成第九旅団司令部の天津防御並に津浦線北部莫東地区防御司令部の任務を継承す、一方終戦后天津に駐屯せる諸々の部隊の人員

2303

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を守備し在天津各部隊約五十数部隊の残業務の処理に任じ、

三、被武装解除及其の後

一〇、六　天津進駐米軍第三水陸隊司令ロッキー少将の命あり、海兵第一師団ベックル
　　傘に降り降下る投降を為さしめられ武装解除を受く。
　　後中国敗区日本官兵善後連絡部天津地区連絡部として終戦の諸業務を遂行す。
　　尚米軍に対する作業員の差出を為すと共に邦人の帰国、軍隊の復員対内外の
　　所衛に奔走万全を期しつゝ遂次帰国復員を為さしめ、主力は昭二、四、一二
　　頃の任を独立歩兵第二旅団司令部に継承し

四、一四　塘沽港出発、

四、一八　佐世保着

四、三　上陸、九月　日復員を完結せり。

　　内地帰還時主力と分離し復員した一部の略厂は省略す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団歩兵第八九旅団司令部略歴

年月日	概要
	部隊長　陸軍少將　渡本一席　昭五、八、一
	〃　岡　博明　昭三、三、三
昭五、八、一	編成下令　昭一九年軍令陸甲第七九号に依り臨時編成下令
八、一五	編成完結　綏遠省集寧県平地泉に於て
	行動概要
八、一五	蒙古連合自治政府巴彦塔拉盟包頭に現駐
九、三	第一次察包作戦に参加
一〇、四	蒙疆地区警備（包頭）
一一、一五	第二次察包作戦に参加
一二、一五	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭一九、一三、一六	蒙疆地区警備（包頭）
〃 四、二二	包頭出発
四、二二	北京ー南京を経て中支那江蘇省大倉県何宅到着
四、二八	何宅附近に於て光号作戦準備の為陣地構築並に警備
四、二八 八、一〇	
八、一一	何宅出発津浦線にて北上北京を経て
八、一三	蒙疆張家口に到着同地周辺の警備
八、一四	停戦詔書発布
八、二一	張家口出発行軍に依り南下し南口（北京北方）に至る
九、二	南口出発北京に至り東郊外の警備
九、一二	北京出発塘沽に至る
三、九、二九 三、一一、一七	塘沽出発、河北省寧河県軍糧城に到着同地周辺の警備
一一、一八	天津に集結
四、一一	天津出発塘沽にて乗船

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四一九
佐世保ニ上陸

四二〇
復員完結

(316)

2307

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第九旅団独立歩兵第二百二三大隊第一

陸軍少佐　水口三郎

年月日	概要
	編成完結
	第一九・一・九　京都歩兵第百二八連隊補充隊ニ於テ完結
	編成
	大隊本部一、　歩兵中隊五、　歩兵砲中隊一　通信隊一
	定員人馬数
	本部人員　二九名　馬匹　四頭
	歩兵中隊人員　二四九名
	歩兵砲中隊〃　七八名　馬匹　五九頭
	通信隊〃　七四名　馬匹　九頭
	計人員　一四二六名　〃　七二頭

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭五、二、二二	内地港出発（門司港）
二、二九	浦口上陸
三、七	山東省兗州到着
	臨時編成に依り機関銃中隊を増加装備す。
	機関銃中隊人員一一一名　馬匹二九頭
	九二式重機関銃　七
	其他小銃及軽機関銃を要領す
昭五、四、一八	京漢作戦参加
〃　七、八	部隊長　陸軍少佐　水口三郎転属す。

装備

八九式重擲弾筒　四二

四一式山砲　二

行動

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭九、七、一二　蒙疆地区警備の為山西省遠征に集結

七、一九　部隊長　陸軍大尉　士井政人着任す

七、二九　安邑出発、同三〇日平地泉着任す

編成改正

昭九、八、一　軍令陸甲第七九号に基き臨時編成下令

部隊名

第百十八師団独立歩兵第二百二三大隊

部隊長　陸軍大尉　士井政人

八、一三　蒙疆厚和に進駐

編成完結

イ、編成

大隊本部　一、歩兵中隊五　機関銃中隊一、歩兵砲中隊一

2、定員人馬数

本部人員　五六名　馬匹　五頭

歩兵中隊人員一八九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機関銃中隊人員	一二二名	馬匹 二九頭	
歩兵砲中隊人員	一一〇名	馬匹 四二頭	
計 人員	一、二三三名	馬匹 七二頭	
3、装備			
三八式歩兵銃	九四	九六式軽機関銃	三〇
〃		〃	
八九式重擲弾筒	四一	九二式重砲	八
四一式山砲	二	九二式曲射歩兵砲代用 平射歩兵砲	二
迫撃砲	二	六号無線器	一〇

行動の概要	
綏遠厚和地区警備	昭九、八、一五
光号作戦参加の為中支へ移動	〃一〇、四、一〇
中支太倉県附近の警備	一〇、四、二三
	一〇、四、二九

2311

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、一三　秋季作戦の為蒙疆文転進

八、一四　停戦詔書発布

九、二三　河北省翁河県附近の警備

三、一、一八　河北省天津に集結

四、一一　復員帰還の為塘沽出発

四、一九　内地港湾佐世保港に上陸復員

五、九　復員完結

LST指揮班要員残留者　四組　四九名

住死不明一名

京都府船井郡摩気村大字竹井小字辻田垣内二番地

辻田寛太郎右は昭一九、一三、一〇　蒙疆厚和市在留に於て戦病死とす

内地帰還時本隊と分離し一部部隊復員し左記厂は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二二三大隊（一部）略歴

部隊長　陸軍少佐　土井政人

年月日	概要
三、二五	「LST」指揮班要員として、組田少尉以下四二名帰還の目的を以て天津進
	終部を出発　部隊主力と分離す
四、二	組田少尉以下　四二名（將校二、下士官十三　兵二七）
	はLST指揮班要員として塘沽出航
四、七	佐世保上陸全員　異状なく夫々帰郷せり
	高崎曹長は残務整理者となり
四、九	二日市に至り事務処理に任じ
	任務終了帰郷す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二三三大隊ノ一部

年月日	概要
昭三、一、二九	士淵中尉以下二四名　LST要員として天津貨物廠に集結貨物廠使役作業す
三、七	LST要員として貨物廠出発
三、七	塘沽着
三、八	塘沽出帆
三、一三	佐世保上陸　旧外尾海軍兵舎着
三、一三	復員式終了
	將校一名　下士官一〇名　兵一一名　除隊召集解除す

2314

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団独立歩兵第二三大隊略歴

陸軍少尉　原田善明

年月日	概要
昭二、一四	LST乗組要員　（以下大名）として部隊（当時芦台）を出発
一、五	天津に到着　天津貨物廠にて待期す
一、三〇	LST一〇〇二号により佐世保港に到着、同港碇泊中
二、七	上陸兵　吉田淳次入院す
二、二五	塘沽に帰港し、同日天津貨物廠に到着
三、七	貨物廠にて待期
三、一三	M九四大隊に編成され佐世保に上陸　同日復員す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団独立歩兵第二三大隊略歴（附）

陸軍大将　有吉育二

年月日	概要
	部隊名　独立歩兵第二三大隊の一部
	編成
昭三、二、一七	作命に依り有吉大将以下一九四名
	行動
三、一九	傷病者に乗船
三、一三	内地帰還のため塘沽港出発途中事故なく
三、一八	山口県仙崎港上陸同日復員式挙行解散す
	人員内訳　将官　五名
	准士官　一名
	下士官　九〇名
	兵　一三八名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二二四大隊（二六名）編成

陸軍少尉　高久　恵五郎

年月日	概要
昭二、一、二九	LST指揮班要員に編成
	部隊（天津）出発
	第一天大兵站病院軍医一名仏生下士官一名
	仏生兵三名　計五名掌握
昭二、一、二九～二、二四	天津貨物廠にて乗船待期
二、二四	天津出発
	LST第七一六号にCL第77の邦人一〇五二名と共に乗船
二、二五	塘沽出帆
三、二	佐世保、瀬戸に上陸
	宿舎（針尾海兵団）到着
	復員完結
三、四	解散帰郷

2317

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp